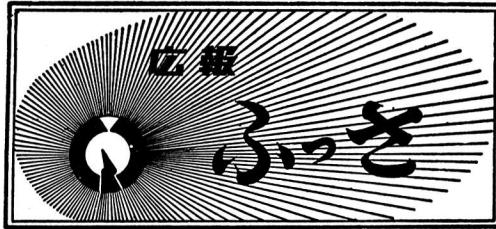


市の人口

昭和45年10月1日現在
住民登録人口39,106人

内	男	19,283人
	女	19,823人
世帯数		11,795戸
9月中	(増)	512人

(減) 275人



1970. 10. 20

No. 104

発行所 福生市役所

発行兼 企画調査室

電話51-1511・内線212



強い力

オーワス オーワス
どこまでもつきぬけるような
青い秋空に向って
元気な子どもたちのかけ声が
ひびきわたる。

力いっぱい引っぱる結束した大きな力
この力はかしこい力
ぐんぐんのびるたくましい力
明日の福生市をになう
強い力だ。

(写真は第一小学校運動会から)

別表1 昭和45年、35年児童生徒の身長、体重の比較
()内は35年

区分 学年 男女別	身 長(cm)			体 重(kg)		
	男	増	女	増	男	増
小学校	1 (6才)	113.9 (112.9)	1 (112.0)	1.2 (19.6)	19.6 (19.5)	0.1 (19.0)
	2 (7才)	119.4 (116.4)	3 (116.3)	4.9 (21.5)	22.2 (21.5)	0.7 (20.6)
	3 (8才)	125.3 (123.4)	1.9 (122.6)	4.2 (25.5)	25.5 (25.0)	1.6 (23.0)
	4 (9才)	130.3 (127.6)	2.7 (127.5)	3.3 (27.9)	27.9 (25.9)	2.0 (25.9)
	5 (10才)	134.4 (132.5)	1.6 (134.6)	3.0 (32.3)	31.3 (29.7)	1.9 (29.7)
	6 (11才)	140.1 (136.8)	3.3 (135.7)	3.5 (31.2)	34.2 (33.2)	3.0 (33.2)

に定めています。
一、日常生活における食事について正しい理解と望ましい習慣をつけること。
二、学校生活を豊かにして、明るい社交性を養うこと。
三、食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進をはかること。

現在、小学校の学校給食はほとんど実施されておりますが、中学校は全国的にも立遅れております。福生市においては中でミルク給食を実施しておりますが、完全給食については現在検討中です。

別表三は東京都における中学校の給食実施状況ですが、区部は○%が完全給食を実施しております。これは、都内の二十三区内においては、都区財政調整(都からの財政措置)が行なわれるため、

別表一は昭和三十五年度と本年度の福生市の児童、生徒の身長と体重の比較表ですが、平均して大きなのびをめしています。特に小学校六年から中学にかけては著しいものがあります。

なお、栄養過多による肥満児は全生徒の5%程度見られます。

身長、体重とも大きなのび

この点でも市町村と区部とでは、大きな格差があります。
なお、町村でも、「ここ一年間に共同調理場の建設により、約半数が完全給食を実施するようになりました」。

わが国では、明治十二年山形県の鶴岡町で六七人の生徒が弁当を持ってこられないので、昼食を与えたのがはじまりです。はじめ

りました。

政府の物資が放出され、つづいてラヲ物資が救援され、給食の明るい見通しがつきました。

昭和二十一年の暮、早く戦前のようなよい給食になるよう文部省、農林省、厚生省が共同で給食をひろめてくださいと働きかけ、再び給食がひろまり、昭和二十六年、国際連合救済が打ち切られてから、継続が問題とな

りましたが、昭和二十九年には、政府の物資が不足し、アーリカのミユンヘン市で、貧しい家のことどもたちが、学校に弁当をもってこられない児童のためスープ食堂を作り与えたのがはじまりで、その後相次いでヨーロッパの国々が実施するようになりました。

学校給食には長い歴史があります。今から百七十年前、ドイツのミユンヘン市で、貧しい家

の間に共同調理場の建設により、約半数が完全給食を実施するようになりました。

中学校の給食も検討中

給 費 (人1ヶ月) 45年10月現在

市名	小学校	中学校
福生	900円	ミルクのみ(2中) 月170円 年10ヶ月分徴収
青梅	1,000	
立川	低 1,050 (1年~3年) 高 1,150 (4年~6年)	ミルクのみ100円~150円
昭島	低 1,000 高 1,100	1,300(完全実施)
田無	低 1,000 高 1,100	ミルクのみ 150円
日野	1,100	ミルクのみ100円~150円

別表2 東京都中学校給食実施状況 45.5.1現在

区分	学校数	実施校	ミルクのみ	未実施
区	374	302	72	0
市	85	6	22	57
町村	47	28	5	14
計	505	336	99	71

年頃には日本全国で給食をしておりました。このように昭和十五年頃には日本全国で給食をしておりました。

そして、次第にその範囲も広がり、明治三十年には東京都ではからだの弱い子に給食を実施しました。

大正十年には、岐阜県では、

そんなにためになるならすべての児童にということではじめてあります。

このように昭和十五年頃には日本全国で給食をしておりました。



いる学校の児童は三百十五万人になりました。

しかし、この頃から戦争が次第にはげくなり、食物がなくなりました。

昭和三十年には学校給食はほとんどなくなり、子どもの体位が非常に悪くなり、病気や

栄養失調者が多く、食糧難の時

代となりました。

政府の物資が放出され、つづいてラヲ物資が救援され、給食の明るい見通しがつきました。

昭和二十一年の暮、早く戦前のようなよい給食になるよう文部省、農林省、厚生省が共同で給食をひろめてくださいと働きかけ、再び給食がひろまり、昭和二十六年、国際連合救済が打ち切られてから、継続が問題とな

りましたが、昭和二十九年には、政府の物資が不足し、アーリカのミユンヘン市で、貧しい家

の間に共同調理場の建設により、約半数が完全給食を実施するようになりました。

学校給食には長い歴史があります。今から百七十年前、ドイツのミユンヘン市で、貧しい家

の間に共同調理場の建設により、約半数が完全給食を実施するよう

一日も早く中央線三鷹、立川間の立体複々線化と青梅線、五日市線の東京直通の増発を!

沿線の13市町村が国鉄に陳情!!

中央線・鷹と立川間と青梅線、五日市線の沿線にある福生市他13市町村(三鷹、立川間立体化複々線促進議会)は9月4日、国鉄当局に、三度目の立川までの複々線化と青梅線五日市線の東京直通の増発を陳情しました。

これは都心への通勤難を解消するため、国鉄の輸送力増強下、年計画の中にある三鷹と立川間の複々線化計画を一日も早く実現してもらいたい、沿線に住む人たちが安全で快適な通勤通学ができるよう

ために、国鉄の輸送力増強下、年計画の中にある三鷹と立川間の複々線化計画を一日も早く実現してもらいたい、沿線に住む人たちが安全で快適な通勤通学ができるよう

解説

現在、三多摩の都市化は急ピッチで進んでおりますが、増加移住人口のほとんどが、都心への通勤者であり、青梅線の混雑は東鉄管内でもトップであるといわれております。また福生駅の朝のラッシュ(7時から8時まで)には約四五〇〇名の乗客がありますが、押島駅からの混雑は特にひどい状態です。

これに対し、国鉄では、現在青



朝の福生駅は人でいっぱい

関係市町村と議会が一丸となって要望したものです。

現在、中央線の複々線化は三鷹までのびれば青梅線や五日市線の都心直通転が増加することであり、沿線住民のラッシュ解消はもとより、三多摩地方の開発にも大きく役立つわけです。

毎日、さわやかな通勤通学ができるよう、みんなで力を合わせ、この運動をもりあげるよう市民のみなさんのご理解とご協力をお願いします。なお、近く、押島駅附近に促進用看板を設置する予定です。

加盟市町村 注、立体化複々線促進議会

市立川、国立、国分寺、昭島、青梅、福生、町、瑞穂、羽村、秋ヶ島、多摩、奥多摩、五日市、村日の出

梅線の東京直通は福生駅発7時十分のほか、青梅始発が四本あるだけで、朝のラッシュはさばききれない状態です。

このような問題を改善するため西多摩郡においても、青梅線、五日市線、八高線改善期成同盟があり西多摩郡の市町村と議会が一丸となって運動しておりますが、この青梅線、五日市線の東京直通の改善は、基本的には立川駅や中央線の改善に関係してくるわけです。

国鉄では、都市間の旅客輸送や大都市への通勤通学輸送などの問題に対し、積極的にとりむ方向を示していますが、今年の二月十九日に発表した「日本国有鉄道の財政に関する経営的基本的な計画」の中で、混雑を緩和するため大都市通勤通学輸送対策を推進することが示されておりますが、とにかく財政再建のため効果の高いものから実施するとして、全国の主要通勤区の線路増設計画の中に、中央線の中野立川間をとりいれています。しかし、計画は十年間はかかると考へるために、早急に実現してもらいたいと陳情したもの

好評 楽しい料理教室

食欲の秋をむかえて、9月18日、保健衛生モデル地区に指定されている永田、長沢、加美地区の主婦を対象に、東京都の主催で楽しい料理教室が永田クラブで開かれました。

これは、地域にあった栄養価のある食品の作り方、冷凍食品の使い方、病人食の作り方などを中心に開かれたものですが、40名のお母さん方が集まり、いかのマリネ、オイスター・チャウダーなど品の料理を勉強しました。



福生市でも歩行者天国

10月10日、11日の連休は福生駅前通りが歩行者天国となり開放されました。

これは、秋の交通安全週間にちなんで、福生警察署、福生市交通安全協会、中央商工会、福生市の協力で行なったものですが、車のない道路は思いのままに歩けるのでなかなか好評で、みんなのびのびとした表情でショッピングを楽しんでいました。

